

■ 列車の安全運行について

富士急行線のみならず全国の鉄道で事故、障害が多いのが踏切です。踏切、線路内立入り、線路横断による列車の緊急停止などの事故に繋がりがねない事象が発生しています。当社では列車の安全運行のために、さまざまな取り組みを実施しています。

■ 踏切保安設備の改良

踏切の無謀進入防止を目的に、視認性向上効果のある全方位型警報ランプの設置や、踏切道のカラー舗装により安全性向上を図っています。

また、踏切内車両滞留による衝突事故を防ぐために、障害物検知装置や踏切支障報知装置の増設を進めています。通行量が僅少な踏切には、音声で通行者に安全確認を呼びかける、ガイド装置を設置いたしました。

■ 交通安全運動への参加

踏切事故を未然に防ぐ取り組みとして、地元警察や自治体、交通安全協会と協力した踏切事故防止キャンペーンを実施した他、大月警察による交通安全パレードに、2018年度も参加しました。緊急自動車での啓蒙放送や踏切事故等防止活動への参加、安全パトロールを実施しました。

■ 鉄道安全教室

沿線の小学生や幼稚園の皆様へ、踏切の安全な通行方法や、電車利用時の駅での安全な乗降等についてわかりやすく説明する催しを、当社職員が小学校に出向いて実施しています。

2018年度は関東運輸局と合同で聖徳幼稚園の皆様へクイズ形式で安全な踏切の通行方法等を学んでいただきました。

● 沿線の皆様へのお願い

踏切及び線路内は大変危険です。列車は急に停車することはできません。また、車内のお客様にも危険が伴います。踏切を横断するときは必ず一旦停止し安全確認した上で通行をお願いします。また、警報機が鳴ったら、必ず踏切手前で停止してください。踏切ではない箇所での線路内侵入は絶対にしないで下さい。安全運行のためのご協力をお願いいたします。

■ ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の取り組みに対するご意見をお寄せください。

● 富士急行(株) 事業部 安全・CSグループ
TEL 0555-22-7100 E-MAIL traffic@fujiky.co.jp
(電話での受付：月～金 9:00～18:00)



① 文科大学踏切
(障害物検知装置カラー舗装)



① 交通安全運動の様子



① 鉄道安全教室

■ 当社の索道事業(ロープウェイ・リフト)に関する安全管理体制

当社は、山梨県の河口湖湖畔から天上山富士見台の460mを結ぶロープウェイ「富士山パノラマロープウェイ」と、静岡県富士山南麓にあるスキー場「スノータウンイエティ」のスキーリフト及び神奈川県相模原市の「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」内にある園内リフト、福島県二本松市の「あだたら高原スキー場」の合計4事業所において、索道事業を行っています。



① 富士山パノラマロープウェイ



① イエティスキー場



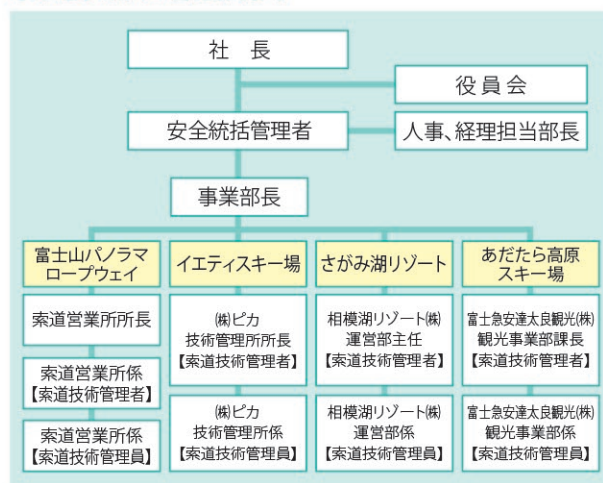
① さがみ湖リゾート



① あだたら高原スキー場

平成18年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を構築しました。「安全統括管理者」「索道技術管理者」「索道技術管理員」を配置し、各責任者の責務を明確にした中で安全確保のための役割を担っています。

● 索道事業安全管理体制図



● 2019年度 安全目標

索道運転事故0件 索道インシデント0件

● 2019年度 安全重点施策

※富士急グループ安全重点施策の他に「索道技術者の育成強化」を掲げております。

■ 安全管理の方法

■ 安全会議の開催

索道安全統括管理者及び、全事業所の技術管理者が出席する索道安全会議を定期的開催し、事故・故障の分析、再発防止対策、教育や施設整備の実施状況など意見交換を行い、情報の共有化を図っています。

■ 経営層の巡視

鉄道と同様、社長及び安全統括管理者が定期的に現場を巡視し、現業実態の把握及び職員との意見交換を実施しています。



■ 安全に関わる取り組み

■ 工事

各事業所にて点検結果や使用状況に基づき、施設改良や更新工事を実施しております。2018年度には富士山パノラマロープウェイにおいてゴンドラ扉の保安装置を設置、各所で故障を未然に防ぐために部品の交換工事を実施しております。

■ 異常時訓練、教育

年間の教育計画に基づき、異常時における救助訓練を実施しております。



① 富士山パノラマロープウェイでの訓練



① さがみ湖リゾートでの訓練

■ ご報告

● 2018年度における事故・障害について

2018年度はイエティスキー場において空車リフトに従業員が誤って接触し、脱索するインシデントが1件発生しました。(2019年度において再発防止対策工事を実施しております)

● 設備投資

2018年度	予算総額	1億4千300万円
	安全投資額	7千500万円
2019年度	予算総額	2億8千万円
	安全投資額	6千770万円

※安全投資の主な内訳：富士山パノラマ／受電設備改修工事、風速計増設 ほか

【お客様へのお願い】

ロープウェイ・リフトご利用の際は安全上、係員の指示に従いご利用をお願いします。
みなさまのご協力をお願いいたします。

安全報告書 2019



ごあいさつ お客様をはじめ沿線の皆様へ

日頃より富士急行をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。当社は「安全の確保」を企業行動規範に掲げ、何よりも安全を第一優先と考えております。

2018年度は昨年より継続してホームの安全性向上を図り、上大月駅・都留市駅に点字タイトルの整備を進めた他、JR 中央線からの直通特急列車の速度向上（最高速度が60km/hから70 km/hに向上）に併せ、鉄道線路の更なる安全を目指し枕木交換や電柱のコンクリート柱化を進めました。また、近隣住民の方に当社の鉄道を安全に利用してもらうため、駅における啓蒙活動や小学校・幼稚園において鉄道安全教室を定期的に開催しております。

この安全報告書は、鉄道事業法に基づき「輸送の安全確保するための現状」と「安全性向上のための取り組み」についてまとめたものです。ご高覧いただくとともに今後とも富士急行をご利用下さいますようお願い申し上げます。

富士急行株式会社
代表取締役社長 堀内 光一郎

【安全方針】

当社は平成18年10月に制定した安全管理規程に基づき、以下の安全方針を定め輸送の安全に取り組んでおります。

1. 一致協力して輸送の安全の確保に努めます。
2. 輸送の安全に関する法令及び、これに関連する規程をよく理解するとともにこれを守り、厳正、忠実に職務を遂行いたします。
3. 常に輸送の安全に関する状況を理解するように努めます。
4. 職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のあるときは最も安全と思われる取り扱いをします。
5. 事故又は事故のおそれがある事態、災害その他輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがある事態が発生したときは人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全で適切な処置をとります。
6. 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
7. 常に問題意識をもち、必要な変革に果敢に挑戦します。

【2019年度重点施策・安全目標】

安全マネジメントに基づく、輸送の安全に対する体制の更なる整備・拡大を進め、事故を起こさない体制作り、また安全の確保に支障を及ぼす恐れがある事態が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全で適切な処置をとる体制づくりを強化します。本年度より鉄道・索道・バス・タクシーの事業間の垣根をこえてグループ職員の安全意識の醸成と事故を起こさない体制づくりを実施するため、富士急グループ安全重点施策を新たに設定するとともに、各事業独自の安全重点施策も設定しております。

富士急グループ 安全重点施策

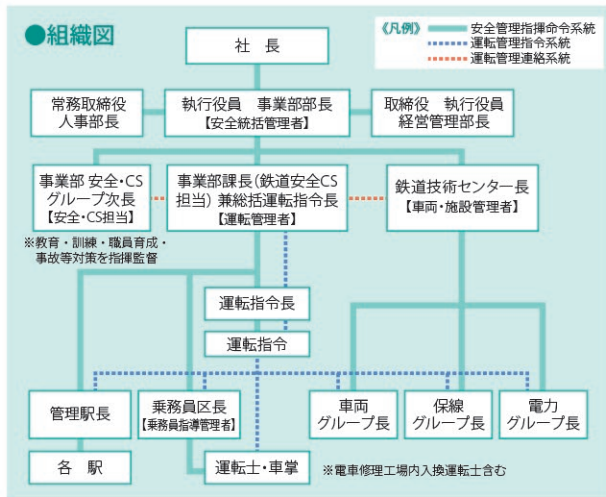
- ①安全対策設備及び装備更新及び新技術の積極的推進
- ②危機管理体制及びテロ及び異常気象時対応のさらなる強化
- ③管理者を含めた職員の安全や技術教育体制充実による資質向上
- ④職員の健康管理、労務管理の徹底
- ⑤外国人観光客の安全対策、異常時対応の充実
- ⑥確実な指差呼称の実施“目と指と声と心で危険予知”
- ⑦安心安全のため基本運転、動作の励行
- ⑧情報伝達やコミュニケーション確保により請負先、委託先と一体になった事故防止
- ⑨安全で快適な施設整備の推進

鉄道事業 安全重点施策

- ⑩踏切及び線路内立入対策を強化
 - ⑪第4種踏切道廃止の推進
 - ⑫小動物侵入対策の推進
- 安全目標：運転事故及びインシデント0件、有責輸送障害件数（30分以上の遅延、運休）についても0件とし、踏切直前横断及び踏切内立入事象を低減します。

■ 当社の鉄道事業に関する安全管理体制

平成18年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を構築し、「安全統括管理者」「運転管理者」「乗務員指導管理者」等、各責任者の責務を明確にした中で安全確保のための役割を担っています。また、職員の教育、訓練、育成及び事故防止等を専門で担当する安全・CSグループを設置し、より安全性向上のための体制を整備いたしました。



■ 安全管理の方法

安全マネジメント年間計画に基づき、社長以下各種の体制により安全管理体制をチェックし、改善方法を検討、実行するPDCAサイクルを推進しています。

■安全会議の開催

毎月1回、安全統括管理者を中心に本社事業部担当、現業長が出席する「安全会議」を開催し、安全に関する工事や教育の実施状況の確認、ヒヤリハットの発生状況と対策、並びに安全に関する提案について意見交換し、情報共有しています。なお、結果については社長へ報告しています。

■経営層による巡視、把握及びマネジメントレビュー

社長及び安全統括管理者は定期的に各職場を巡視し、現場の実態把握や職員との意見交換を実施し、安全体制の確認を行っています。また、年1回、社長招集のマネジメントレビュー（会議）により安全に関する施策の進捗、達成状況を確認、改善策の指示を行っています。

■内部監査実施による安全体制の確認

安全体制を確認する専門知識研修を受講した内部監査員により、輸送や施設の管理が適正に実施されているか確認する内部監査を行っています。

■ 安全や利便性向上に関わる取り組み

■老朽化設備の更新

富士急行線では、安全運行のために老朽化した設備を更新しております。昨年度においてはレールや電柱を更新しました。更新にあたっては耐久性向上のために、材質を木からコンクリートに変更、レールについては従来よりも重いレールに更新するなど、施設の安全性向上に努めております。

■小動物侵入対策の推進

鹿などの小動物が線路内に侵入し、走行中列車が緊急停止する事象が発生しており、この対策として鹿が嫌う超音波を発する「鹿ソニック」を鹿出現箇所に設置しています。鹿の出現場所にあわせ今後も増設を進め、侵入防止柵の増設など獣害対策を進めていきます。

■ 輸送の安全を確保するために

■異常時訓練・体制

年間の教育・訓練計画に基づき、異常時対応訓練を実施しています。2018年度には地元警察及び消防と合同で、実際に他社で発生した列車内における無差別殺傷事件を想定した訓練を実施しました。また、大規模地震発生を想定した対応・情報伝達訓練を引き続き実施しております。乗務員や信号操作担当、保守担当者等職種別では、各職場において専門的な研修・訓練を行い、知識や技術の向上を図っています。また、AEDを用いた救急救命講習や、視覚や足に障害のある方に対する、介助講習等の研修を実施しております。

■職員の健康等管理

24時間体制で、安全関係業務に従事する職員については、年間2回の健康診断を行っています。日常においては、アルコールチェック装置等により厳正に管理を行っています。前年度に続き、産業医出席による安全衛生委員会を毎月1回実施し、あわせて産業医と職場長による職場巡視や、健康相談等を行っています。

■大規模災害時用備蓄品の配備

大雪や地震など大規模災害等で鉄道が運休した際、お客様及び職員が利用する最低限の生活用品と食糧品を駅に配備し、鉄道の早期復旧とおお客様の健康、安全のための対策を行っています。

■ 日々の訓練・点検

全体的な訓練の他、各職場単位で専門的な訓練を行っています。

■乗務員や駅員の異常時訓練

車両・信号のトラブル等発生時に迅速な対応、並びに乗客の皆様の安全を守る為の訓練を、夜間他、様々な状況を想定し実施しています。また、人命救助のための、心肺蘇生やAEDを使用した対応訓練等も行っています。

■レールの保守点検、交換

レール検査は目視の他に超音波による探傷検査を採用している他、線路整備車両（マルチプルタイタンパー）、レールの状態を測定する車両を夜間走行させデータ分析による保守を行っています。2018年度は1箇所に分岐器に加え合計200mのレール交換を実施しました。



①電力設備点検の様子



①マルチプルタイタンパーによる保線作業の様子

■車両の保守

富士山駅構内の鉄道技術センター工場にて、定期的に係員による目視や打音検査及び測定検査を実施しております。また、4年に1回車両の重要部位を分解・精密検査しており、2018年度はフジサン特急車両1編成（3両）について実施しました。

■ ご報告

●2018年度に発生した事故・障害について

◎運転事故	0件
◎インシデント	0件
◎輸送障害	1件（乗務員の取扱い誤りによる区間運休）

●設備投資額

2018年度	予算総額	9億1千万円
	安全投資額	5億7千万円
※安全投資の内訳：車両更新、コンクリート枕木化、点字タイトル整備、コンクリート柱化、踏切障害物検知装置、踏切監視カメラ新設、踏切敷板整備		
2019年度	予算総額	9億8千万円
	安全投資額	5億7千万円
※安全投資の内訳：変電所更新、レール重軌条化、合成枕木化、コンクリート柱化、踏切障害物検知装置、ほか		